

会長所感 2014

会員の皆様，遅ればせながら明けましておめでとうございます。また新 OBOG の皆さん，ご卒業（？）燕舞会ご入会おめでとうございます。

さて昨年の総会をもちまして本会は新体制のもとに第 4 期をスタートしました。第 4 期で代表委員会の大きく変えたことは 2 つです。ひとつのコンパクト化，もうひとつは若手への大幅な権限委譲です。ベテランの経験と助言は時に大変役立ちますが，反面いくら良いことを言っているとしても，どうしても機動力は低下してしまいます。実務は若い人にどんどんやってもらうほうが良いだろうと思っています。

第 3 期に引き続き，私は今期も会長を仰せつかっておりますが，第 3 期と違って，会長の位置づけは名誉職，平たく言えばお飾りです。出来ることとはいえ皆さんを励ますくらいしかありません。私は昨年，可能な限り多くのレギュラー戦を観戦し，会場に駆けつけた会員の皆様とともに現役諸君を応援いたしました。最近，多くの試合が開催される獨協大学の近くに，ちょっと気に入っているラーメン屋があります。ここで昼食を取っていると私よりはるかに年上の他大学の OBOG をお見受けします。ここで皆さんは今日の試合や最近の現役部員の様子の話に夢中になっています。私はとても羨ましく，また燕舞会の現状を返りみて少し寂しくも思いました。六大学戦，早慶戦など様々な交流イベントがある六大学と異なり，現在，本会会員にとって，この総会，懇親パーティが現役との唯一の接点です。若手の会員の皆様とは試合会場で良くお会いしますが，私と同世代，また私より 10 歳，20 歳若い世代であっても，もう試合会場に足を運ぶことはありません。東工大の校風として論理的に物事を進めることが出来る人は多くいらっしゃると思います。しかしそれは熱い情熱と相反するものではないはずで。ダンスに情熱を傾けた 4 年間は，今でもその人の宝物であり，今，青春の真っ只中にある現役諸君と時を越えて共有できるはずで。

（なにぶん私たちも最早オッサンなので，少々「心の加齢臭」があるかましれせん。「共有」は煙たがられないよう，先輩としての礼節に気をつけましょう）

私は，今日ここにお越し頂いていない会員の皆様も含めて，何の銜いも無く世代を超えて熱い思いを若い人と分かち合う，そんな燕舞会のクラブマンシップが産まれるといいな，今日のこの集い，新会員の皆さん，そして現役の皆さんとの出会いが何かのスタートラインになればいいな，と思っています。

名誉職ゆえ，少々無責任な物言いで失礼致しました。最後に今日の一言。

「今年こそ松原団地（独協大学）に青春の忘れ物を捜しに行こう」

本澤 養樹（燕舞会 会長 東工大 昭和 56 年卒）

2014/01/18